

## 第2回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

日時	平成24年7月17日(火) 9:30~10:50
場所	豊橋市役所 コミュニティルーム
報告者	鈴木啓靖
出席者	別紙のとおり
傍聴者	なし

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

○議事録署名者 青木晶子委員、伊藤麻里子委員

### 3 議題

#### (1) 市民協働推進補助金の見直しについて

※資料1に基づき、事務局が説明

**会 長：** 今回の見直しというのは一宮市の1%支援制度や豊田市の地域自治区制度のような新たな仕組みを導入するのではなく、現行の枠組みの中でこの補助金制度の微調整を行うということか。

**事務局：** その通り。

**委 員：** 補助金を知っているという団体は87%あるが、申請したことがある団体は28%。補助金を知っているけど申請をしないというのは、資金が足りているという団体もあるとは思いますが、やはり使いづらいということもあるのだと思う。また、制度を見直す前に、団体の育成を目的としたものなのか、事業を増やして活性化するものなのか、どういう目的で補助金を出すかということも考える必要がある。団体の育成を目的に考えるならば、運営に関する部分に対しても補助を考えなければいけないかもしれない。ただし、やみくもに補助率を上げればいいというものではなく、補助率を上げて使いやすくなっても、それが本当に団体の育成につながるのかということも考えなければいけない。

**事務局：** 補助金の目的としては委員が述べた2つで、団体の育成ももちろんだし、補助金を活用して事業を増やしてほしいというのが目的。まずは使いやすくすることが一番大事だと考えている。たとえば審査に関わってくる部分でもあるが、申請書の簡素化というのも、書類を書くというはじめの一步が踏み出しやすくなり有効では。

**委 員：** うちの団体にも応募を勧めたが、以前苦労して申請書を書いたけど審査で落ちてしまい、またあの苦労をするのはいやだと応募していない。やはり書類を簡素

化し、審査についても落ちた団体にも分かるような方法で行うのが良いと思う。

**会 長：** 申請書類のどの部分が難しいのか？

**事務局：** 似たような項目があるため、表現を変えないといけないのではと思ってしまふことと、特に効果分析書が難しいと団体に思われている。他市の状況も確認したが、事業計画書とは別に効果分析書を提出するのは1市のみ。その他の市は、効果分析ができるような項目を事業計画書に入れている。

**委 員：** 今の様式は、審査員が審査しやすいように作られている。また、団体もそうしたことを考えながら書類を書くことによってレベルアップにつながる。ただ、初めて書く人にとってはハードルが高い部分があるのも事実。

#### 事務局対応案についての検討

##### ◇補助率

**委 員：** 応募数が減っていて、追加募集しないといけない現状もあるので、上げてほしいと思う。

**委 員：** 上げるなら最低でも70%は欲しい。30万円の事業で50%を60%に上げて、その差は3万円だけであまり効果はないと思う。

**委 員：** 1年目70%、2年目50%、3年目30%とすれば3年間では変わらない。

##### ◇限度額

**委 員：** 補助率との調整となるのでは。補助率を上げるなら限度額をあまり上げられない。

**委 員：** ハードについては、財源がどのくらいになるかで事務局で検討してほしい。

**事務局：** 民都機構の財源がなくなった後もハード補助金を存続させるとすると、今のハードの上限85万円のままなら、ハード1件でくすのき3件の事業ができてしまう。そうした点を検討して次回事務局案を提示したい。

##### ◇補助回数

**委 員：** 現状通りでよいと思う。

**委 員：** アンケート結果で継続した支援が必要ということだったが、つつじからくすのきへの移行が本来それにあたるのでは。

##### ◇設立年数

**委 員：** 5年位まで延長することはいいと思う。両方申請できる期間もあり、申請機会も増える。

##### ◇対象外経費

**委 員：** 申請すれば何でももらえるというのは良くない。自分たちの努力は必要。

**委 員：** うちの団体ではバザーを開催して資金を集めて自分たちで努力している。料理教室でも、材料費はみんなから集め、講師にもお金を払っていない。

委員： 手話の謝礼が3千円なら、千円だけ認めるなど、上限を設けてはどうか。

事務局： 岡崎市では人件費についてはトータルの事業費の10%までを認めており、これも上限といえると思う。

会長： 直接関係はないが、団体が市の施設を利用する際、減免措置ができればインセンティブになるのでは。

◇申請機会の複数化

事務局： 最初から4月と10月とすることで、年間を通したPRができるのではと考えている。

◇他の補助金の交付

委員： 補助金を探して書類を書いて認めてもらって資金を得る、という自助努力であり、書類を書くことが困難だという意見がこれほどある中で、認めないという理由が見つからない。認めないなら、理由をよほど明確にしないと自助努力を否定することになるのでは。

委員： あちこちから補助金をもらうことにならないか。

委員： そう簡単にももらえないのでは。企業がやっている補助金などは、東京の審査員にも分かるような書類を提出しなければならず、書類作成は今以上に大変。

会長： 次回（8月21日）の事前審査時に、今日の意見を踏まえた対応案を事務局より提示してもらい、この案件を継続して審議する。

#### 4 報告

（1）平成24年度市民協働推進事業の進捗状況について

※資料2に基づき、事務局が説明

#### 5 その他

次回：平成24年8月21日（火）13：30～ コミュニティルーム

※公開プレゼンテーションは9月11日（火）

#### 6 閉会

平成24年8月21日

議事録署名者

青木 晶子 ④

伊藤 麻里子 ④

## 第2回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

NO	氏 名	選 任 区 分
1	あおき あきこ 青木 晶子	公募 (とよはし女性フォーラム)
2	いとう まりこ 伊藤 麻里子	国際交流協会から推薦 (CSN豊橋(愛知大学4年))
3	いわさき まさや 岩崎 正弥	学識経験者 愛知大学地域政策学部教授
4	せがわ ちとし 瀬川 千敏	公募 (豊橋防災VCの会)
5	てらだ やすお 寺田 康生	市民センター指定管理者から推薦 (NPO法人 NPO愛知ネット)
6	なつめ しょういち 夏目 章一	豊橋市自治連合会から推薦 (豊橋市自治連合会会計)
7	ふくおか よしひこ 福岡 吉彦	豊橋市社会福祉協議会から推薦 (豊橋市社会福祉協議会職員)

※鈴木稔依委員は欠席

### 《事務局》

市民協働推進課 課 長 金子 尚央  
主 幹 中山 久美子  
課長補佐 河合 幸子  
主 査 内藤 政宏  
主 査 中澤 浩英  
主 査 吉田 節子  
主 事 加藤 純子  
主 事 鈴木 啓靖